

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課											
使命		文化芸術活動の環境を整備し、鑑賞機会の創出、活動支援、情報発信を通じて、お客さまが文化芸術に親しみ、高い質と親しみやすさの両方を備えた、市外から訪れたくなり市民が誇りに思えるアートにあふれるまちづくりを進めます。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	町田市文化プログラムの推進	重点 事業ブ ラン	・まちだ〇ごと大作戦と連携し、市民等に文化プログラムへの参画を促します。 ・市民参加型の文化プログラムを実施し、市民の文化振興に対する気運を高めます。	文化プログラム 実施件数	30件/年	○	市主催の町田市文化プログラムを3件実施しました。また、町田市文化プログラムとして市民主催の事業8件を認証しました。	引き続きまちだ〇ごと大作戦と連携し、市民等へ参画を促します。また、小学生向け水彩画ワークショップ等、市が主催する町田市文化プログラムを実施する予定です。	市民との協働による町田市文化プログラムを6件実施しました。市民主催の事業について、まちだ〇ごと大作戦と連携し、広報等を行い、参画を促しました。	31件/年	C	実施件数が目標数値を上回りました。内、市民との協働によるものは、6件実施しました。	更なる周知を行うと共に、市内で活動するアーティスト等に、積極的に参画を呼びかけていきます。
2	博物館での魅力ある企画展の開催	個別 計画	①(仮称)町田市立国際工芸美術館の整備開館に向けて、市民の注目度を高めるため、博物館主催・共催の魅力ある展覧会の開催と情報発信を積極的・効果的に行います。 ②アウトリーチによる館蔵品の紹介等を行います。	①博物館主催・共催の展覧会の観覧者数、及び遺跡公園の利用者数 ②博物館外でのイベント参加者数	①28,000人/年 ②1,500人/年	○	①12,540人 ②1,310人	①人間国宝加藤土師萌・ガラスデザイナー淡島雅吉を取り上げた展覧会を2回開催する予定です。チラシミュージアム(スマホアプリ)で情報を発信します。 ②イベントスタジオで博物館所蔵の工芸作品の魅力を伝えるアウトリーチ展などを開催します。	①評価は高いが他館で取り上げられなかった作家や、教育委員会共催考古・民俗展などを実施しました。 ②イベントスタジオで博物館所蔵 ガラス工芸品の実物展示などを実施しました。	①26,800人/年 ②3,300人/年	C	①工芸美術を中心とした展覧会を開催し、スマホアプリでの新たな広報活動も行いましたが目標を達することは出来ませんでした。 ②博物館外での実物展示を行いました。	入館者数の増員に向け、多くの人の目に触れる広報活動に力を入れます。
3	(仮称)国際工芸美術館の整備	未来 づくり プロ ジェク トかつ 重点 事業ブ ラン	((仮称)国際工芸美術館の設置及び管理運営手法について、検討を行います。	指定管理者導入の検討状況	指定管理者の業務範囲の決定	○	(仮称)国際工芸美術館と国際版画美術館の業務のうち、両館で統一できる業務について検討を開始しました。	(仮称)国際工芸美術館と国際版画美術館における指定管理者の業務範囲の決定をします。	芹ヶ谷公園及び他施設との一体的な管理についても検討するため、両館における指定管理者の業務範囲の決定は行いませんでした。	両館の業務のうち、統一できる業務の検討を行いました。	D	目標の業務範囲の決定は行いませんでした。	両館のみならず、芹ヶ谷公園一体を踏まえた検討をします。
4	文化芸術資源を活かしたシティセールスの展開	個別 計画	文化芸術パートナーシップ協定事業や地産地SHOWコンサート等のシティセールス事業を行います。	シティセールス 実施数	8回/年	○	パートナーシップ協定事業として、音楽座ミュージカルのホームタウン公演が開催されました。地産地SHOWコンサートを1回開催しました。	音楽座ミュージカルの芹ヶ谷スタジオでの公演を開催予定です。地産地SHOWコンサートを3回開催予定です。	公演及びワークショップを実施しました。地産地SHOWコンサートは、合計4回開催しました。	8回/年 (パート ナーシ ップ 協定4回、 地産地SH OWコン サート4回)	C	実施件数が目標数値に達しました。	座席数不足の対策を検討していきます。各事業のあり方を再検討します。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
5	民俗・歴史資料の有効活用の方針決定に向けて	行政経営改革プラン	①ゆくのき学園に移動させた民俗歴史資料を公開して活用します。 ②三輪の森ビジターセンターの展示室オープン、及び民俗歴史資料の収納・保存を促進します。	①見学会回数 ②展示の開始	①3回 ②三輪の森ビジターセンターでの展示・公開の開始	○	①1回 ②4月20日オープン	①2月8・9学校公開で見学会を行います。 ②三輪の森ビジターセンターに博物館収蔵民俗資料1600点を移転します。	①2月8・9学校公開にて民俗資料見学会実施しました。 ②移転完了しました。	①3回 ②展示開始	C	①ゆくのき学園学校開放での民俗資料公開など新たな試みで目標を達成しました。 ②民俗資料移転を完了、展示を開始しました。	ゆくのき学園・三輪の森ビジターセンターを中心に地域の文化・民俗資料の公開、学校への貸出を進めていきます。
6	文化芸術ホールの整備検討	未来づくりプロジェクトかつ重点事業プラン	文化芸術ホールの機能、設備や整備手法等を研究するため、先進自治体等の施設を視察します。また、文化スポーツ振興部としての基本的な方向性をまとめます。	基本的な方向性のまとめ	文化芸術ホールの基本的な方向性のまとめ	○	世田谷パブリックシアターの視察を行い、ホールのコンセプトや整備手法、管理運営手法等を報告書にまとめました。また、課内において、文化芸術ホールの基本的な方向性をまとめるための議論・検討を開始しました。	川崎市スポーツ・文化総合センターの視察を行いました。報告書を作成し、今後の検討の資料とします。また、課内における議論・検討を継続して行い、文化芸術ホールの基本的な方向性をまとめます。	世田谷パブリックシアター及び川崎市スポーツ・文化総合センターの視察を行い、各ホールのコンセプトや整備手法等を報告書にまとめました。また、課内において議論・検討を継続的に行い、基本的な方向性をまとめました。	先進市視察報告書の作成及び基本的な方向性のまとめ	C	目標どおり先進自治体等の視察を行い、部としての基本的な方向性をまとめました。	中心市街地全体のまちづくりや市の文化施策における位置づけ等、多面的な視点から検討していきます。
7	成人式の今後のあり方の検討	個別計画	今後の町田市成人式について、これまでの課題や問題点をまとめ、成人年齢の引き下げも見据えながら、あり方を検討します。	成人式のあり方見直し	課題や問題点のまとめ	○	課内で検討会を行い、成人式の課題や問題点を洗い出しました。また、他自治体の実施状況等について、情報収集しました。	課内での検討会を継続し、課題や問題点を抽出・整理します。また、成人式に関する国や他自治体の動向を注視し、情報収集に努めます。	課内での検討会を行い、成人式の課題や問題点をまとめました。また、成年年齢の引き下げに関する国や他自治体の動向について情報収集を行いました。	課題や問題点のまとめ	C	目標どおり課題や問題点をまとめました。	課題・問題点に対する改善・解決策を検討します。また、2022年度の成年年齢引き下げへの対応について検討・決定します。
8	広告・協賛、補助金の研究	個別計画	広告・協賛、補助金等のさらなる確保に向け、情報収集・研究に努めます。	広告・協賛、補助金等の確保	3件	○	市民ホールのトイレの洋式化について東京都の補助金を申請しました。また、成人式で新成人に送付する広告入りハガキの物品提供を受けました。	引き続き、情報収集・研究を行い、確保に努めます。	市民ホールのトイレについては予定どおり確保しました。また、成人式について3件の協賛を受けることができました。	4件	B	目標を上回る協賛を得ることができました。特に、成人式では新たな試みとして、企業広告をプログラムに載せることで協賛金をいただくことができました。	補助金については、引き続き、調査・研究に努め、広告・協賛については、より、企業の協力を得られるような仕組みを検討していきます。

部課名		文化スポーツ振興部スポーツ振興課												
使命		スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。												
実行計画(年度目標)														
順位	取組項目	計画類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認		年度末評価			
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や成果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応	
1	子どもと高齢者の体力向上の推進	重点事業プラン	子どもの体力低下対策や、高齢化社会における健康寿命延伸のため、多世代に対してアプローチできる地域スポーツクラブ等が主体となって各種スポーツ教室を実施します。	教室事業の参加者数 ①子ども対象 ②高齢者対象	①32,000人 ②26,000人	○	教室事業の参加者数は、①子ども対象事業は、18,239人、②高齢者対象事業は、13,366人でした。(9月末時点見込み)	地域スポーツクラブでは、クラブハウスや学校校庭等での教室事業を継続していきます。また、スポーツ施設では教室事業の見直しを行い、新規教室事業を行うなど、参加者増に向けて積極的にアプローチしていきます。	既存の事業に加え、市立室内プールの休館に伴い、新規教室事業を行い参加者増への取り組みを行いました。また、緑ヶ丘グラウンドにて、新たに地域スポーツクラブの事業を開始しました。	①34,632人 ②26,189人	C	目標値を達成することができました。	市民に身近な場所での事業実施や魅力ある教室事業を実施することで参加者増を図ります。	
2	スポーツをする場の環境整備	重点事業プラン	市民の誰もがスポーツに親しめる環境を創出するため、学校跡地や予定地、高架下、雨水調整池等を、スポーツ利用ができるように整備し、効率的・効果的な管理運営を行います。	①整備施設数 ②基本計画策定数	①2施設 ②1施設分	○	①緑ヶ丘グラウンドは計画どおり工事を進めています。沼中央広場スポーツ施設は、近隣住民と整備内容を検討し、着工準備を進めています。②市内7箇所の大規模スポーツ広場のスポーツ施設整備方針を検討しています。	①緑ヶ丘グラウンドは、10月に整備完了し、11月オープンする予定です。沼中央広場は10月に着工し、1月に整備完了し、2月頃にオープンする予定です。②成瀬鞍掛スポーツ広場の基本計画策定は11月から取り組み、3月までに策定します。	①緑ヶ丘グラウンドは11月、沼中央広場は3月に市民利用を開始しました。②成瀬鞍掛スポーツ広場の基本計画策定をしました。	①2施設 ②1施設分	C	目標値を達成することができました。	成瀬鞍掛スポーツ広場は、2019年度に基本設計を行います。	

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認		年度末評価		
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	地域スポーツクラブの活動活性化	重点 事業ブ ラン	クラブ未設立の地域において、クラブ設立支援を行います。また、クラブの会員数が増加し、安定的な活動ができるように活動の支援を行います。	地域スポーツ クラブの会員 数	2,250人	○	地域スポーツクラブがクラブハウスや学校校庭等での教室事業を実施することで、クラブの活発化につながりました。9月に、地域スポーツクラブの会員数が3,172人となりました。	引き続き事業の実施をすることで、クラブの活発化と会員の増加につながるよう、活動の支援を行います。	会員数が3,309人となり、昨年度と比較すると1,233人の増加となりました。地域スポーツクラブが1クラブ設立されたことや、2018年11月にオープンした緑ヶ丘グラウンドにて新たに地域スポーツクラブの事業を開始したことにより、新たな会員の獲得につながりました。	3,309人	B	目標値を大幅に超える会員数となりました。	地域スポーツクラブの活動活発化のため、今後は、平日日中のクラブハウス活用や、新しい「まちとも」へのプログラム協力等について、活動の支援を行います。
4	トップアスリートとの交流の活性化	個別 計画	トップアスリートとの交流機会を創出します。	トップアスリートとの交流機会の回数	年14回	○	キャノンイーグルスは4回、ベスカドーラは10回交流機会を創出しました。	引き続きフィットサルクリニックや体験会を実施し、トップアスリートとの交流の機会を創出します。	ゼルビアは1回、キャノンイーグルスは4回、ベスカドーラは16回交流機会を創出しました。	年21回	C	目標回数を超える交流機会の創出ができました。	今後は、ホームタウンチームに限らず、市民とトップアスリートの交流機会を創出できるよう検討する必要があります。
5	ホームタウンチームの支援	重点 事業ブ ラン	ホームタウンチームと連携し、試合等の広報や集客の支援を行い、認知度の向上を図ります。	ホームゲーム年間観戦者数	135,000人	△	ホームゲーム観戦者数は、ゼルビアは21試合中17試合で計77,284人、ベスカドーラは13試合中5試合で計5,763人で、合計83,047人でした。地域貢献活動は、ゼルビア119回、ベスカドーラは15回行いました。	地域貢献活動、体験会、出前サッカー教室を継続して実施します。また、キラリまちだ祭や総合健康づくりフェアなどの大型イベントに参加してホームゲームのPRを行います。また、キャノンイーグルスについては、11月10日に陸上競技場でトップリーグの試合があります。キャノンの広報・集客の支援を行い、認知度向上に努めます。	ホームゲーム観戦者数は、ゼルビア103,215人、ベスカドーラ20,740人、合計123,955人でしたが、ゼルビア天皇杯で5,589人、ベスカドーラプレマツチで1,311人、キャノンイーグルスで4,824人、パブリックビューイング計5回で1315人を含めた総観客数は136,994人でした。ホームゲーム年間観戦者数は、123,155人でした。	123,155人	C	ホームゲームのみでは目標とする年間観戦者数に到達することができませんでしたが、ホームゲーム以外の市内で行われたホームタウンチームの試合やパブリックビューイングの観戦者数の合計は概ね目標値を達成しました。	ホームタウンチームが町田市の誇りと思われよう、今後もチームと連携して、PRを行う必要があります。陸上競技場の交通アクセスについて、クラブ・交通事業者等と協力して改善を検討し、観戦者の増加に取り組む必要があります。
6	直営業務の指定管理者による実施の検討	—	直営業務を見直し、指定管理者制度等を活用した事務の効率化を検討します。	直営業務を見直した件数	1件	◎	総合体育館指定管理者に委託していた2事業について、2018年度に実施する指定管理者選考にあわせて、業務仕様書の見直しを行い、2019年度から指定管理者の業務に位置付けました。	10月に指定管理者の選考を実施する予定です。	こどもの日及び小学校の夏期休暇期間の平日に実施する、子どもを対象とした事業について、2019年度から指定管理業務として位置づけました。	2件	B	目標件数を超える件数を直営業務を見直すことができました。	今後も引き続き直営業務の見直しを図り、業務改善に取り組んでいきます。

部課名		文化スポーツ振興部オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課											
使命		東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019等の国際大会の開催を契機に、子どもたちに夢を与え、文化、スポーツ、経済、観光などの多分野の振興と町田市全体の魅力の向上を図っていきます。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	東京2020オリンピック・パラリンピック(東京2020大会)、ラグビーワールドカップ2019(RWC2019)キャンプ招致	重点 事業プ ラン	国際大会や親善試合の開催、トレーニングキャンプ等の実施により、各国の競技団体や大使館等と信頼関係を構築し、その人脈を活かした招致活動を実施します。	(1)東京2020大会のキャンプ招致決定 (2)RWC2019の公認チームキャンプ招致決定	(1)1か国(1競技) (2)1か国	◎	(1)インドネシアパラバドミントン(5月15日覚書締結)、空手(8月27日覚書締結)のキャンプ地招致が決定しました。 (2)ナミビア7月19日に契約を締結しました。	(1)・キャンプ地招致にむけてインドネシアと詳細条件を調整します。 ・南アフリカの関係者の視察を受入れます。 ・中国の事前キャンプについて交渉を継続します。 (2)・関係者の視察を受入れます。 ・地元交流事業等の詳細を調整します。	(1)1年間を通じて、各国競技団体と関係を構築し、連携を深めることができました。その交渉の結果、当初の目標を上回る成果を出すことができました。  (2)公認チームキャンプ地に決定し、滞在するナミビアチームと市民交流イベントについて調整を行うことができました。	(1)3か国(7競技以上) ・インドネシア ・中国 ・南アフリカ (2)1か国 ・ナミビア	A	(1)当初の目標値以上の成果を上げることができました。  (2)当初の目標の1か国(ナミビア)の招致決定に加え、市民交流イベントの調整も行うことができました。	・キャンプ地受け入れ準備を行います。 ・各国との契約締結手続きを行います。 ・市民の関心を高める気運醸成を行います。
2	東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019の開催に向けた気運醸成	重点 事業プ ラン	イベントの実施や街中装飾を行い、様々な機会を捉えて気運醸成に取り組みます。	イベント数	6イベント	○	6月のラグビーパブリックビューイングin調布にブース出店するなど、気運醸成イベントを4イベント実施しました。	今後もイベントを実施することにより、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成に取り組みます。	ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックに関連する気運醸成イベントを10イベント実施しました。	10イベント	B	予定以上にイベントを実施できたほか、東京都や商店会と連携して中心市街地にラグビーワールドカップ2019のPRフラッグを掲出するなど大会気運を高めることができました。	ラグビーワールドカップの公認チームキャンプやオリンピック自転車ロードレースの開催を広く市民に知っていただき、より一層の気運醸成を図ります。
3	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業の実施	-	東京2020オリンピック・パラリンピック競技や聖火リレー等の受け入れに向けた準備・調整を行います。	関連事業の受け入れ準備	実施	○	町田市がロードレースのコースとなることが決定したため、地元町内会や関係団体への調整を行いました。	ロードレース通過自治体や地元町内会と連携し、引き続き受け入れに向けた準備・調整を行います。また、都の実行委員会による聖火リレールート選定等に向けて必要な調整を行います。	2020年のロードレース及び2019年のテストイベントの実施に向け、組織委員会との調整に加えて地元町内会や関係団体との調整を行いました。また、テストイベントの実施に向けたコースサポーターの募集を開始しました。聖火リレーについては、組織委員会とルート選定等受け入れに向けた調整を行いました。	実施	B	関連事業の受け入れ準備を組織委員会と協力して進めることができたほか、既存組織を活用したコースサポーターの募集を円滑に行うことができました。	コースサポーターの選定等、関連事業の受け入れ準備を進めるとともに、本番に向けた準備・調整を行います。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	スポーツボランティア 活性化事業	個別 計画	東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツを「支える」という概念を広く周知し、スポーツボランティアの活動を支援します。	「まちだサポーターズ」年間延べ活動人数	3,000人	○	2018年4月から9月まで(第1四半期及び第2四半期)において、延べ1,540人のまちだサポーターズが活動しました。	引き続き、市内スポーツイベント等を中心に、様々な部署や団体と連携し、活動の場を提供いたします。	様々な部署や団体と連携をし、活動の場を提供した結果、延べ3,038人のまちだサポーターズが活動しました。また、ラグビーとロードレースの講師を招き、まちだサポーターズを対象とした競技解説研修を行いました。	3,038人	C	活動延べ人数について、目標とする人数に達することができました。	新規会員の獲得に向けた周知を進めるとともに、2020年オリンピック・パラリンピックに向け質についても高めていけるような取り組みを進めます。
5	受入環境の整備	—	総合体育館のバス駐車場整備やパラリンピック競技の実施環境整備を行い、キャンプ地の受入に向けた環境整備を行います。	環境整備の対象施設数	2施設	○	9月26日にバス駐車場整備工事の契約を締結しました。	業者との契約手続きを進め、年度内に環境整備を完了します。	当初予定していなかった都補助制度を活用した総合体育館のバス駐車場整備工事を行うことができました。しかし、パラリンピック競技のキャンプ招致対象国が他市に決定したことに伴い、一部の施設では環境整備を行わないこととしたため、目標値には達しませんでした。	1施設	D	目標値に達することができませんでした。	事前キャンプが決定しているパラリンピック種目の受入に向け、受け入れ態勢の構築を進めます。
6	障がい者スポーツの理解促進	—	各小学校にてパラバドミントン教室を実施し、子どもたちに障がい者スポーツへの理解促進を行います。	参加児童数	500人	○	4校でパラバドミントン教室を実施し、297名の児童が参加しました。	今後も教室の実施に向け、必要な調整を行います。	6校でパラバドミントン教室を実施し、735名の児童が参加しました。一部の学校では体験会のほか、パラアスリートによる講演会を実施することができました。	735人	B	目標値を超える児童に体験会を実施することができたほか、講演会実施による障がい者スポーツの学びの機会を提供することができました。	障がい者スポーツの理解促進に向け、体験会の実施のほか、パラアスリートと児童との交流の機会を設ける取り組みを進めます。
7	時間外勤務年間360時間を超える職員数の削減	—	課内での協力体制を取ることにより、時間外勤務の平準化を図り、時間外勤務年間360時間を超える職員数を0とします。	時間外勤務年間360時間を超える職員数	0人	△	課内での協力体制を取りましたが、9月までにすべての職員が時間外勤務180時間を超えている状況です。	今後も時間外勤務の縮減に向け、課内での協力体制の確保に努めます。	課内での協力体制を取ることにより時間外勤務の縮減を図りましたが、2名が360時間を超えてしまいました。	2人	D	目標値に達することができませんでした。	今後も課内での協力体制の確保に努め、時間外勤務の縮減を目指します。

部課名		文化スポーツ振興部国際版画美術館												
使命		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民をはじめすべての来館者に対して、優れた美術作品に触れる機会や環境、および学習、創作、発表の機会を効果的に提供し、美術に親しむことの喜びや感動、やすらぎをもたらすことを目指します。</li> <li>・現在の市民はもちろん未来の市民、さらに広く社会一般に対して、貴重な文化財である版画作品の収集・保存を通じて、市民の財産としての版画の価値を未来に伝えるとともに、専門性に裏付けられた版画文化に関する良質な情報発信を行います。</li> <li>・町田市の文化振興および文化・芸術都市としてのブランドイメージの向上に寄与します。</li> </ul>												
実行計画(年度目標)														
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応	
1	国際版画美術館開館30周年記念・東京2020オリンピック・パラリンピックのプレ企画展の実施	重点 事業ブ ラン	「浮世絵プログラム」と「インプリントまちだ」展といった文化プログラムの企画や、「ヨルク・シュマイサー」展などその他魅力的な企画展の開催します。	①観覧者数 ②来館者数	①107,000人 ②160,000人	○	①42,000人 開館30周年記念「浮世絵モダン展」、そのほかの企画展も好評で、上半期の目標を超えました。 ②67,500人	①65,000人を目標に、開催中の大型企画展とミニ企画展のほか、企画展を4回、ミニ企画展を1回開催します。 ②92,500人を目標に、来館者増に向けて効果的な広報と魅力ある事業の実施に取り組みます。	①企画展についてはマスコミに数多く取り上げられました。年間を通じてTwitterによる情報発信を行い、来館者の増加に努めました。 ②版画工房を会場としたイベントやプロムナードコンサートが好評で、来館者目標を達成いたしました。	①107,500人 ②160,000人	C	イベントの実施やTwitterの活用による新たな観覧者の獲得に努め、目標数に達しました。	市の各部署や関係機関と積極的に連携し、さらなる情報発信に努めます。	
2	SNSの運用開始	—	展覧会や実技講座、講演会、イベントの案内、市民展示室利用の紹介などの催し物情報を発信していきます。併せて、美術館独自のホームページにも詳細な情報を掲載します。	①登録者数 ②投稿数	①350人 ②100回	○	①登録者数419人 ②投稿数121回。 上半期で目標値を達成しました。	様々な切り口で美術館の情報を発信し、さらに登録者数を増やす工夫を続けます。	上半期での目標達成後も展覧会や講座、イベント周知に関する情報を中心に、長期間絶えることのないよう情報発信を継続して行うことができました。	①登録者数660人 ②投稿数200回	B	若年層を対象として、目標数を大幅に上回る結果を出すことができました。	英語配信の回数を増やし、配信内容の多様化と充実をはかります。	
3	電子化された収蔵品情報の整理	—	30,000点を超える収蔵品の情報について、電子化を推進していくためデータを段階的に入力していきます。	入力データ件数	5,500件	○	上半期の入力件数は、3,500件です。学芸係学芸員が担当分野ごとに作品データの入力をすすめる、データベース構築にむけた準備が進んでいます。	前半期同様に入力作業を進め、目標を達成させる予定です。	年間を通じて、データベース用テンプレートに、過去に収蔵した作品のデータを入力しました。また、新収蔵作品のデータの採取と撮影を行い、一部の作品について、データベース用テンプレートに入力しました。	入力データ件数 5,700件	C	目標件数を超えるデータを、データベース用テンプレートに入力することができました。	画像データのための、撮影コスト対策が課題です。	

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や成 果	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	収蔵庫における作品 保存環境の改善	—	虫トラップ調査の実施と、調査結果に基づいた大規模清掃を実施します。また中性紙箱への作品の入替え作業を実施します。	①虫トラップ調査の回数 ②大規模清掃の回数 ③中性紙箱への入替え作業数	①1回 ②1回 ③30箱	○	①7～8月にかけて虫トラップ調査を実施して結果を得ました。②調査結果をうけて、10月中旬に整理室を中心に大規模清掃を実施予定です。③8月から中性紙箱への入れ替え作業を進めています。	10月中旬に整理室、収蔵庫の大規模清掃を実施します。また虫トラップ調査の結果で明確になった注意点について対策を講じていきます。	虫トラップ調査結果と分析をもとに大規模清掃を行いました。中性紙箱への入替えや作業も継続的に行いました。	①1回 ②1回 ③30箱の入替え	C	専門業者に虫トラップ調査と分析を委託しました。結果に基づいて収蔵庫の大規模清掃を実施し、中性紙箱への入替え作業を継続的に行なっていく必要がありました。	30,000点を超える貴重な所蔵品の保存環境を改善するため、防虫・防カビ対策と中性紙箱への入替え作業を継続的に行なっていく必要があります。
5	新たなプロモーションとサービスの検討と準備	—	若年層や外国人などをターゲットとした新たな顧客層の開拓を目指して、新たなプロモーションとサービスの検討を行います。	プロモーション内容検討回数	4回	○	係内会議などでの係ごとに案を検討し、課内ミーティングで提案の精査を行いました。合計3回話あって実施内容を決定しました。	実施を決定した提案について、方法、分担を検討し、長期的な案件は具体的な内容の検討を進めていきます。	決定した提案は予算化が必要であったため、1件計上しました。実施に向けて係ごとの役割を検討し、分担を決めました。内容についても次年度に向けた検討を3月に予定しています。	検討回数 6回 (役割分担決定、内容検討の計2回増)	C	新たなプロモーションとサービス内容を検討し、有効と思われる提案を決定しました。	内容を検討し、実施に向けて準備を進めます。